

令和元年度がん教育総合支援事業 がん教育推進校実践報告

北海道深川西高等学校

学級数：3学級 生徒数：59人

【実践テーマ】

がん教育をとおして、がんについての正しい知識を学び、自己の健康保持に対する意識と態度を育成する。

外部講師との連携：「がんの基礎知識、がん予防、がんとの共生について」

○講師：独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター
緩和ケアセンター ゼネラルマネージャー 武藤記代子 氏

○対象学年・人数 第1学年・86人



校内研修

○講師：深川市立病院がんサロン「すまいるサロン」
代表 村上由記 氏

○対象：教職員・32人

○演題：「がん患者・家族とのコミュニケーションを考える」
～がん患者支援の現場から～



成果と課題

- がん経験者の体験を直接聞く機会を設定したことにより、がん患者にとって医療職との信頼関係や仲間の存在が重要であることについての理解が深まった。
がん専門医による、がんの検査方法・治療方法などについての講話を通して、実際の医療現場の仕事のイメージを掴むことができ、医療職を目指す生徒のがんに対する課題解決に向けた意欲が向上した。
- がんと健康について、家族と話し合うことに対して否定的な回答をした生徒が一定数いることから、保健だよりの発行など、生徒自身が、自他の健康と命の大切さについて学びを深められるようがん教育全体の内容を検討する必要がある。
保健の授業だけでは指導時間の確保が困難であることから、保健の指導内容を精選するとともに、LHRや行事を活用して学校全体で推進する必要がある。